

小学校通常学級における特別支援教育の実践研究

～学級満足度を高める授業づくり・集団づくりの試み～

曾山和彦¹・堅田明義²

(¹名城大学・²中部学院大学)

【問題と目的】

2010年度は特別支援教育の本格実施から4年目となる。今、小中学校等の通常学級において特別な支援が必要と考えられるのは、「発達障害がある、発達障害の疑いがある、家庭環境等に問題を抱えている」等の、いわゆる「気になる」児童生徒であろう。学級に在籍する気になる児童生徒、周囲の児童生徒が共に笑顔で毎日過ごすことは、全ての教師の願いである。教師はこの願いの実現に向け、学級が全ての児童生徒にとっての「居場所」となるよう、様々な働きかけを行う必要がある。特殊教育から特別支援教育への転換が徐々に始まった2001年以降、全国各地の小中学校等の現場で実践が展開され、試行錯誤を経て多くの実践知が積み上げられてきている。会沢・曾山(2008)は、学習、生活、人間関係のそれぞれについて支援が必要な児童生徒に対する支援の具体成功事例を学校現場から抽出・紹介している。これからの通常学級における特別支援教育の推進に必要なことは、成功事例に学び、各地域の実状・児童生徒の状況に応じた実践知を積み上げていくことであると思われる。そこで、本研究では、5年に及ぶ研究により「授業づくり・集団づくりの視点」を整理した公立小学校の実践に焦点を当てる。その上で、日々の継続した授業づくり・集団づくりが、児童の学級満足度に及ぼす効果について検討することを目的とする。

【方法】

対象: 東海地方の公立A小学校4年生2クラス(66名)、5年生(44名)、6年生(50名)の計160名。

調査: 質問紙調査を同一対象者に2回実施した。質問紙は学級単位で実施した。所用時間は約15分であった。

時期: 2008年5月及び11月

内容と手続き: 通常学級における特別支援教育の推進に向け、校内で共通確認された以下の「授業づくり・集団づくり」の視点に基づき、授業及び日常生活の指導・支援を展開した。

<授業づくりの視点>

授業規律の定着；机には必要なものだけを出しておく、話の聞き方・発言の仕方を明確に伝える等

リズムとテンポ；全体読み・たけのこ読み・個人読みなどの音読の工夫、短冊準備による板書のテンポアップ等

1指示1動作；わかりやすい言葉による明確な指示を行う等

<集団づくりの視点>

遊びによる関係づくり；全校遊び(昼休み)、学級遊び(20分休み)等

エンカウンター等による関係づくり；学級活動等において、構成的グループ・エンカウンターやソーシャルスキル・トレーニングを活用等

測定具: 標準化された学級診断尺度であるQ-U(河村,1999)の「学級満足度尺度」を用いた。学級満足度尺度は被侵害得点と承認得点の2軸により、児童の学級生活に対する満足度、居心地の良さを測定する自己評定式の尺度である。

【結果と考察】

児童の学級満足度の変化をt検定により検討した。その結果、承認得点(両側検定： $t(159) = 3.50, p < .01$)、被侵害得点(両側検定： $t(159) = 2.55, p < .05$)共に、5月から11月にかけて有意な正の変容が認められた(Table1)。また、A小学校児童の得点と全国平均得点を示した(Fig.1)。結果からは、5月、11月共に、A小学校児童は全国平均に比べ、承認感、安心感を高く感じていることが明らかになった。

以上から、A小学校が5年間に及ぶ研究によって整理した「授業づくり・集団づくりの視点」に基づく実践は、学級に在籍する児童の学級満足度を高めるために効果的であることが示唆されたのではないかと考えられる。A小学校の授業づくりの3視点は、個への支援が全体の支援につながる授業づくりの視点であり、ユニバーサルデザインの視点である。また、A小学校の集団づくりの2視点は、人とかかわる技術であり、コツでもあるソーシャルスキルを、楽しい雰囲気の中で自然に身につけることを意識したものであるといえよう。通常学級における特別支援教育の推進に向け、どの子も参加できる授業づくり、人とのかかわりが楽しいと感じられる集団づくりの必要性がA小学校の実践により明らかに示されたといえるのではないだろうか。今後は、気になる児童個々の変容にも焦点を当て、学級全体の変容と併せて検討することで、A小学校の「授業づくり・集団づくりの視点」の有効性を、より明確なエビデンスとして提示できるのではないかと考えている。課題としたい。

Table1 A小学校高学年児童(4～6年 N=160)学級満足度尺度得点平均値の比較

	5月	11月	t値
承認得点	19.99(3.40)	20.75(3.05)	3.50**
被侵害得点	9.14(3.79)	8.46(3.26)	2.55*

()内は標準偏差 * $p < .05$ ** $p < .01$

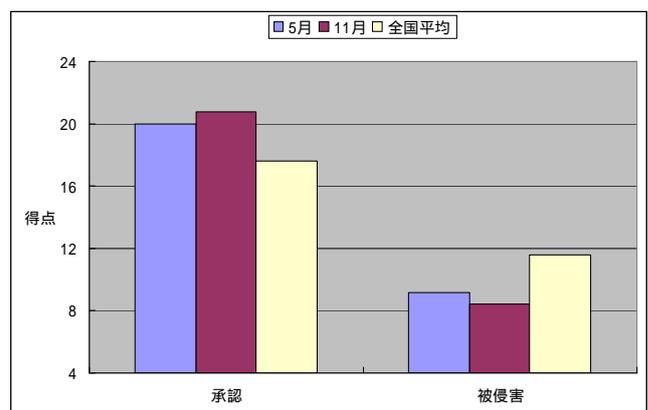


Fig.1 A小学校高学年児童得点平均値と全国平均値の比較

【参考文献】

- ・会沢信彦・曾山和彦 2008 気になる子への対応術 教育開発研究所
- ・河村茂雄 1999 楽しい学校生活を送るためのアンケート Q-U 実施・解釈ハンドブック 図書文化

